

修士論文（要旨）  
2009年1月

工業高校生による国語文章表現の問題点  
－わかりにくさの要因－

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科  
言語教育専攻  
20541403  
江口由美子

## 目次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| はじめに                        | 1  |
| 第1章 研究の背景                   | 2  |
| 第2章 調査概要                    |    |
| 2.1 調査1 「教科『国語』に関する意識調査」    | 3  |
| 2.2 調査2 「文章修正調査」            | 3  |
| 第3章 結果と分析                   |    |
| 3.1 調査1 「教科『国語』に関する意識調査」    | 5  |
| 3.1.1 質問1の結果                | 5  |
| 3.1.2 質問2(1)・3(1)の結果        | 6  |
| 3.1.3 変化の時期要因               | 7  |
| 3.1.4 質問2(3)・質問3(3)の結果      | 11 |
| 3.1.5 質問6(1)・(2)の結果         | 18 |
| 3.1.6 質問11(1)・質問12(1)の結果    | 22 |
| 3.1.7 質問12(2)自由回答に見るキーワード分析 | 23 |
| 3.1.8 質問12(2)自由回答に見る表記分析    | 24 |
| 3.1.9 誤表記のもたらす「わかりにくさ」      | 25 |
| 3.2 調査2 「文章修正調査」            | 26 |
| 3.2.1 「文章修正調査」問4例文1の結果      | 27 |
| 3.2.2 「文章修正調査」問4例文2の結果      | 28 |
| 3.2.3 「文章修正調査」問4例文3の結果      | 29 |
| 3.2.4 「文章修正調査」問4例文1の修正文     | 30 |
| 3.2.5 「文章修正調査」問4例文2の修正文     | 32 |
| 3.2.6 「文章修正調査」問4例文3の修正文     | 35 |
| 第4章 考察                      |    |
| 4.1 言語に対する苦手意識              | 39 |
| 4.2 共有・継承の脆弱さ               | 39 |
| 4.2 コミュニケーション・メディアの変化       | 41 |
| 4.3 言語環境の変化が招く「わかりにくさ」      | 42 |
| 第5章 まとめと今後の課題               |    |
| 5.1 基礎学力の底上げ                | 44 |
| 5.2 国語教育に取り入れたい日本語教育        | 44 |

参考文献

資料

## 要 旨

### 1 研究の目的

本研究は、日本語母語話者である工業高校生の文章表現能力をとりあげるものである。高校生たちに「教科『国語』に関する意識調査」ならび「文章修正調査」を行い、考察を加える。

生徒の書く文章の、わかりにくさの要因はどこにあるのだろうか。本研究は工業高校生を対象とした調査を通し、わかりにくさの要因を明らかにすることを目的とする。以下ではまず、アンケート調査の概要を報告し、その調査結果について述べる。わかりにくさの要因の一端を明らかにすることで、今後の作文指導の一助になればと考える。

### 2 調査概要

調査1「教科『国語』に関する意識調査」を、調査協力者である工業高校3年生141名（内 女子1名）に、2006年度末（2007年1月31日～2月2日）実施した。また、調査2「文章修正調査」を調査協力者である工業高校1・2年生197名（すべて男子）に、2007年度末（2008年3月13日～3月21日）実施した。

### 3 結果と分析

調査1「教科『国語』に関する意識調査」については、質問1・2・3「国語の好き嫌い」、質問6「集中力」、質問11・12「言葉をうまく使えているかどうか」の結果を取り上げ、分析した。結果、「読むことが好き」「漢字が好き」と「国語が好き」である傾向にあることがわかった。また、「言葉をうまく使えていない」と考えている生徒が多く、その要因は自分であると考えていることがわかった。

「文章修正調査」については、本稿では問4の結果についてのみ論じた。問4は、次のような例文をあげ、その修正を求めたものである。

- 1 子供のとき母が私をしかって、私はよく泣いた。
- 2 ボーイフレンドは私に結婚を申し込み、私はすぐ、返事をした。
- 3 先生がアルバイトをやめて勉強しなさいと荒川くんに言って、荒川くんは困っ

日本語母語話者なら、1つの場面で、視点（視座）の変化する文章をわかりにくい、不自然だと感じるのではないかと考えたが、どの例文についても全体の半数が「不自然ではない」と回答した。

### 4 考察

共有・継承の脆弱さ、コミュニケーション・メディアや言語環境の変化から、言語技術の4技能のうち、「書く」という能力が急速に落ち込んできているように思われる。

### 5 まとめと今後の課題

時にはある生徒にとっては日本語を母語というよりも、日本語を母語と思わずに、外国語のように扱っていくことが肝要になる場合もあろうと考える。

## 参考文献一覧

- 安藤節子・小川誉子美(2001)『日本語文法演習 自動詞・他動詞、使役、受身ーボイスー』スリーエーネットワーク
- 今井邦彦(2004)『なぜ日本人は日本語が話せるのかー「ことば学」20話』大修館書店
- 岡崎眸・岡崎敏雄(2001)『日本語教育における学習の分析とデザイン 言語習得過程の視点から見た日本語教育』凡人社
- 樺島忠夫ほか(1996)『漢検5級～2級 常用漢字の級別学習』京都書房
- 小泉英明(2005)『脳は出会いで育つー「脳科学と教育」入門』青灯社
- 独立行政法人国立国語研究所(2006)『日本語教育の新たな文脈ー学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性ー』アルク
- 河野守夫ほか(2007)『ことばと認知のしくみ』三省堂
- 小西行郎(2003)『赤ちゃんと脳科学』集英社
- 小森万里(2006)「中級作文におけるわかりにくさの要因ー結束性、卓立性を支える要素をめぐってー」『ことばとそのひろがり4:山口幸二教授退職記念論文集』立命館法学
- 佐治圭三(1992)『外国人が間違えやすい日本語の表現研究』ひつじ書房
- J.V.ネウストプニー・宮崎里司(2002)『言語教育の方法』くろしお出版
- 田代ひとみ(1995)「中上級日本語学習者の文章表現の問題点ー不自然さ・わかりにくさの原因をさぐるー」『日本語教育』85号
- 名古屋YWCA教材作成グループ(2004)『わかって使える日本語』スリーエーネットワーク
- 年少者言語教育国際研究会実行委員会(2007)国際研究会『「移動する子どもたち」の言語教育ーESLとJSLの教育実践から』年少者言語教育国際研究会プロシーディングス
- 藤川大祐(2008)『ケータイ世界の子どもたち』講談社
- 文化審議会答申(2004)『これからの時代に求められる国語力について』文化審議会国語分科会
- 堀内都喜子(2008)『フィンランド豊かさのメソッド』集英社
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語ー改訂版ー』くろしお出版
- 文部科学省(2007)『OECD生徒の学習到達度調査 Programme for International Student ASSESSMENT (PISA)ー2006年調査国際結果の要約ー』文部科学省
- 文部科学省(2007)『OECD生徒の学習到達度調査 Programme for International Student ASSESSMENT (PISA)ー2006年調査問題例ー』文部科学省
- リッカ・パッカラ(2008)『フィンランドの教育力ーなぜPISAで学力世界一になったかー』学習研究社
- 渡邊あや(2007)「「フィンランドにおける」児童生徒の資質・能力」山根徹夫(代表)『諸外国における学校教育と児童生徒の資質・能力』国立教育政策研究所